胃病なら イカ

[illegible]

郵船出帆

日ハ變更スルコトアルベシ
要驛ニテ寄港主要驛及大連
海行各等船車聯絡切符發賣
船中△印ハ船客御斷リ

阪港出帆

横濱、函館、小樽行
十九日發

神戸、門司、基隆、安平、打狗行
十二日下見
十三日入札

製鐵所の大罷業は

[illegible]優良青年團として紀元節の佳辰に縣より表彰されし人[illegible]彦次郎、吉中マツ、宮地ツチ、牛島警察部長、横地高商[illegible]次郎、倉光百合藏(後列)林久治郎、金[illegible]房生事、宮野村青年團代[illegible]

年	月	日
正大	年	月	日
紙名		

何なる態度に出つるか素より窺知するを得ざるも採聞する處に依れば到底

△初志 を貫徹し得ざること今一つは之が運動のため官憲の干渉を受くるは面白からざるを悟りたるものか初志を改め長官の回答に對し陳情をなすことを見合せそれに代ゆるに伍長組長が多く老年者にして勞働問題に對する

△理解 なきを批難し今後斯かる不眞面目の事件を惹起するが如きとなからしむるため伍長組長の改選の陳情をなし自己より伍長組長を出さんとする野心を有し居る者

▲勞友會

幹部上京

友愛會本部と打合の爲めか

勞友會幹部八名は十日午前七時八分八幡驛發列車にて急遽上京せるがコハ東京の友愛會本部と聯絡打合せのためならんと觀測されつゝあり

▲安河内知事

長官訪問

安河内知事は十日午前九時廿三分八幡驛着列車にて來幡し八幡警察署に安達檢事正、中山憲兵分隊長、野村八幡警察署長と共に製鐵所に白仁長官を訪問せり

▲事務官歸京

十日午後出發

政府より重要命令を受意業狀態視察のため來幡中なりし警保事務官天宅敬次氏は既に職工が作業に從事したるを以て九日午後四時當地出發歸京せり

▲淺原西田

收監さる

小倉分監へ

治安警察法違犯として起訴され八幡警察署に於て佐藤平田豫審判事の審問を受つゝありし勞友會長淺原健三郎副會長西田健

日の疲勞のためか岩橋小倉署長の部下に屬し溶鑛爐警戒中なりし教習所生小野福藏門司署の袈裟丸達三の兩巡査は九日夜卒倒し直に製鐵所病院に收容され八屋署より應援の巡査大久保庄三門司署の高松巡査は寒氣に打たれて寒冒に罹り四十度以上の發熱を見るに至り八幡私立病院に收容されたり

▲新原山田

起訴さる

八幡警察署において一旦取り調を受けたる後一時放還され居りし勞友會新原一夫・山田榮藏の兩名は九日に至り起訴されたり

▲勞友會員の

細君連

本部に窮狀を訴ふ

勞友會の幹部及會員十四名の女房は主人が罷業後家を出で各所秘密會をなし盛に暗中飛躍をなし更に家を顧みざるため生計費の出る處なく漸く日に窮迫の狀態を告げ來りしため九日より勞友會本部に押掛け狂氣の如くなりて窮狀を訴へ眞面目に作業をなしくれと哀願しつゝあり

▲長官に會見申込

友愛會神戸支部の木村鎰吉氏外二名の幹部は中川次長に拒絶されたる調停の勞を執るべしとの旨に付十日午後二時白仁長官と會見せり(午後二時八幡特派員)

製鐵所七十四工場

一齊作業復活

入門職工人夫一萬五千餘

場内何等不穩なけれど

警戒は依然嚴重を極む

日に至り林立せる五百餘の煙筒より再び黑煙を吐くに至り十四工場の機關が一齊作業を復活せる八幡製鐵所作業開二日目の十日は作業の爲め入門せる職工一萬三百十七人職四千三百十四人人夫六百七十六人にて合計一萬五千三百十人に達し九日夜より十日朝に至る間場内には何等不穩の模なかりしが五百五十名の警官と百五十の憲兵は依然として[illegible]手を緩めず各工場に就き嚴重なる警戒監視を[illegible]